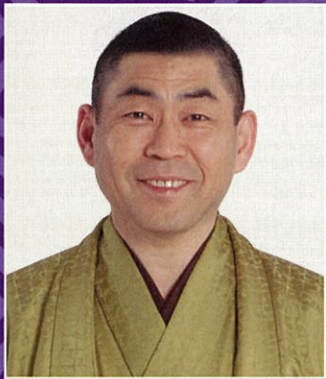


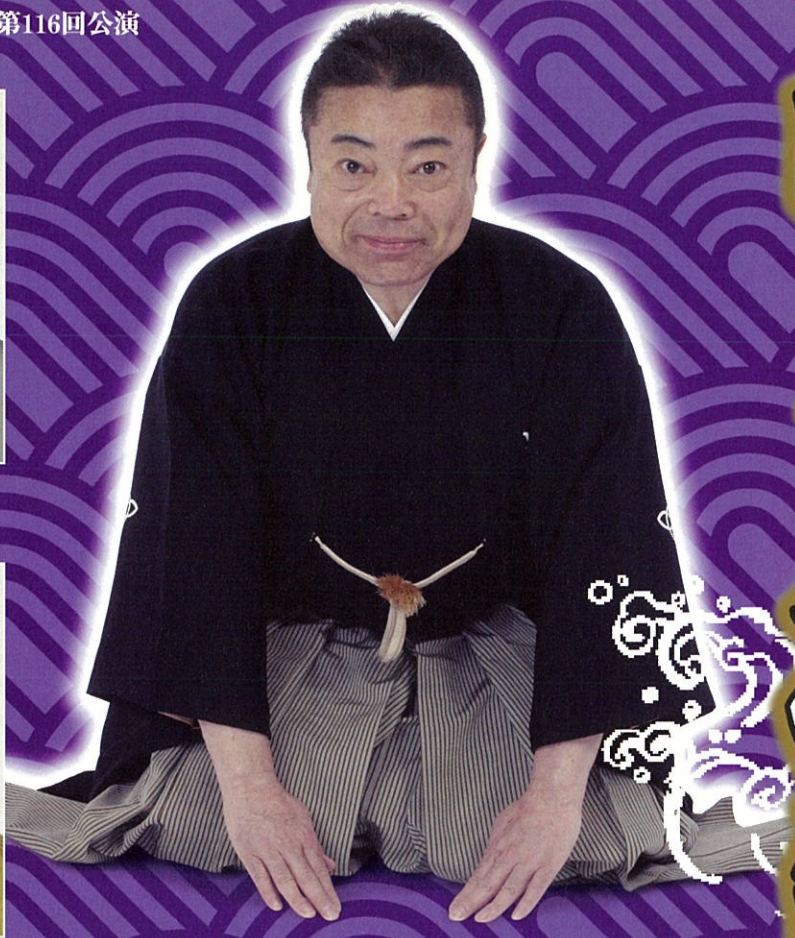
桂 ざこば



桂 南光

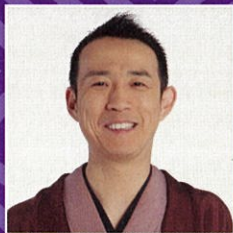


桂 雀々



*演目は当日のお楽しみ！

桂	桂	口	桂	桂	桂	桂
塩	ざ	上	南	雀	こ	小
鯛	こ	中	光	々	ご	鯛
	ご	入	鯛		ご	
	ろう	一			ろう	
	ば	一			ば	
	う				う	
	う				う	



桂 ころう



とま都 改メ
桂 小鯛

四代目 桂都丸 改メ 桂塩鯛

襲名披露公演

平成22年 11月6日【土】 15:00開演 (14:30開場)

茨木市市民総合センター・クリエイトセンター・センターホール

【全席指定】 1階席3,000円 / 2階席2,500円

◎65歳以上、18歳以下、障害者及びその介助者は500円引き

◎茨木市観光協会、茨木市勤労者互助会、OSAKAメセナカード各会員は10%引き

*各会員割引の取り扱いには文化振興財団のみです *就学前のお子様のお入りはご遠慮ください

電話予約開始 9月4日(土) 9:00

窓口販売開始 9月5日(日) 9:00

◆チケットのお申込み・お問い合わせ

(財)茨木市文化振興財団・事業係 072-625-3055 (ユアアイホール1階 9:00~17:00)

*発売初日は電話予約のみです。チケット引取り・窓口販売は翌日から下記のチケットカウンターで
ユアアイホール 9:00~20:00(土・日・祝は17:00まで) / クリエイトセンター 9:00~17:00

◆その他の販売所 [9月4日店頭販売有り]

ローソンチケット 0570-000-777・Lコード予約 0570-084-005 (Lコード59374)

電子チケットびあ 0570-02-9999 (Pコード405-862)

◆主催: (財)茨木市文化振興財団 ◆後援: 茨木商工会議所 / 茨木市観光協会 ◆制作協力: 米朝事務所

襲名披露 橋本門



四代目桂塩鯛 襲名披露公演

塩鯛さんの新しい門出を祝う

四代目桂塩鯛のご名おめでとうございます。

私は、茨木市内でご近所だったこともあり、放送作家時代には、テレビ番組でよくご一緒した。旅番組が多かったので、全国各地でお酒を呑んだ。海外旅行も体験した仲である。

それだけに、今回の襲名は、私にとっても我が身のことに嬉しい。

塩鯛襲名の話は、五、六年前に大師匠の桂米朝師からあったという。そのタイミングを図っていたところ、芸歴三十周年記念の独演会打上げの席で、師匠のざこば師や落語作家の小佐田定雄氏などから「名前を変えたらどうか」と勧められて決断した。

都丸という名前は、京都出身の塩鯛さんにとって、とても気に入っていて、師匠が朝丸からざこばに変えた折りも、そのままにしていた名前である。

しかし、この際新しい可能性を見つけ、新しい名跡に挑戦したという。

八月六日、大阪・梅田のサンケイホールブリーゼでスタートを切った襲名披露公演は、全国およそ三十カ所で開催されている。

このクリエイトセンターでの会でおよそ三分の二が終了したことになる。来年二月十九日の京都・南座の最終公演まで、まだまだ全国行脚が続く。

塩鯛という名前の復活は実に六十九年ぶりのことで、おそらく先代の芸を見た人は、この世で皆無であろう。

しかも、この名前は奇妙な歴史を持つユニークな存在である。

初代の塩鯛は、ステージネームではなく、初代桂文団治のニックネームであったという。鯛を保存するために塩を大量に振った干物にしたものを塩鯛と言うそうで、初代の文団治が、その干物によく似ていたから付いたと言われる。

二代目の塩鯛も、ニックネームのまままで引き継がれ、三代目になって初めて正式な芸名として登場する。それが、二代目桂米団治門下で二代目桂米紫を名のっていた人である。

こう考えてくると、米団治一門の都丸さんが四代目桂塩鯛を継ぐことが、極めて当たり前になる。

先代は「向う付け」「野崎詣り」などを得意とした。新塩鯛さんも、こうしたものを踏襲しつつ、「酒の嘶」をたくさん増やしていきたいとその抱負を語る。

「らくだ」「替り目」「住吉駕籠」さらには「市助酒」のような「酒の嘶」に挑戦したいという。

(財)茨木市文化振興財団第一一六回公演

◆平成二十二年十一月六日(土)午後三時開演

◆茨木市市民総合センタークリエイトセンター・センターホール

相羽秋夫

「演芸評論家／大阪芸術大学教授」
茨木市文化振興財団理事

もともと、芸歴二十五周年を記念して開いた「二十五日連続落語会」で、一日二席、計五十席の実績がある。このベースの上に、さらに大きく花咲かせる覚悟だ。

入門して六年目に「ABC漫才落語新人コンクール最優秀賞」を受賞して注目され、「大阪舞台芸術奨励賞」や「文化庁芸術祭優秀賞」に輝くなど、世間の評価も高く、正統な上方落語を将来に継いでいく一人として期待されている。

私も落語への情熱、その姿勢が申し分なく、何よりもその人柄の良さに魅せられている。

襲名はその人をひとまわりもふたまわりも大きくするとされる。必ずや今までの立派な噺家になっていただけでしょう。

塩鯛と言う名前をいつから継ぐのか、興味深いのが、これは人によってまちまちで、例えば、五代目桂米団治さんは襲名当日の日昇時間が五時五十五分であったことから、五に因んで、その時刻から名をつたという。

塩鯛さんは、八月六日、自宅からサンケイホールブリーゼに向い、その楽屋の入口に新設した「着到板」と呼ばれる出演者の動向を知らせる板の自分の名前の札をひっくり返した瞬間から塩鯛になった。

まことに粋な襲名ではないか。

塩鯛さんの三人のお弟子さんも、それぞれ新しい名前を名のる。

まず一番弟子の都んぼさんは、前述した三代目塩鯛の前名を継いで四代目桂米紫となる。数々の新人賞に輝き、大成が予想されているだけに、新米紫にも大きな期待がかかる。

二番弟子のさん都さんは、鯛をもらって桂鯛蔵となる。東京の大学を出たが、上方の都丸さんにあこがれて入門をした。師匠と同じ時に改名というチャンスを得たことに満足しているよう。

とま都さんは桂小鯛に改名。いかにも塩鯛門下という名前だけに、これからの飛躍を期待したい。

この他に、米朝事務所のエースの皆さんが加わって、この茨木の住人としての塩鯛さんの晴れ舞台を盛り上げる。必ずや熱気のもった素晴らしい会になることを保証したい。

◆チケットのお申込み・お問合せ

(財)茨木市文化振興財団 072-625-3055 (茨木市市民会館1階 9:00~17:00)

*財団の発売初日は電話予約のみです。お席はお選びいただけません。

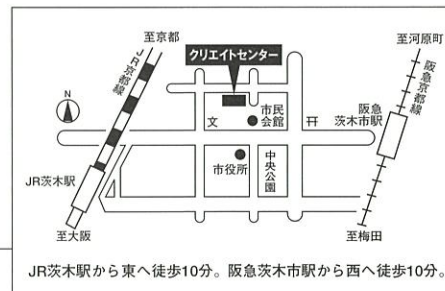
*予約後は、1週間以内に市民会館またはクリエイトセンターチケットカウンターでご精算ください。

*予約チケットの郵送をご希望の場合は、〈チケット料金+郵送手数料400円〉を郵便局備え付けの

「払込取扱票」でお支払いください。手数料はご負担願います。払込確認後の発送となります。

〈振替口座〉00970-7-190576/加入者名:財団法人茨木市文化振興財団

◆クリエイトセンター(茨木市市民総合センター)茨木市駅前四丁目6番16号/072-624-1726



JR茨木駅から東へ徒歩10分。阪急茨木市駅から西へ徒歩10分。